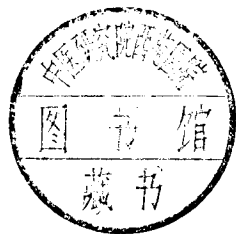


1018977

# 原色針灸穴位解剖圖譜

山東醫學院《針灸穴位解剖圖譜》編集製圖組  
山東中醫學院《針灸穴位解剖圖譜》翻譯組  
山東中醫學院《針灸穴位解剖圖譜》翻譯組



1984年9月27日  
中國山東科學技術出版社

1980·濟南

## 原色針灸穴位解剖図譜

---

出版者 中国山東科学技術出版社  
(山東省濟南經九路勝利大街)

発行者 中国国際書店  
(北京P.O. BOX399)

---

日本総発行 亜東書店  
(東京都千代田区神田錦町  
1-4日中友好会館内)  
電話：東京 291-9731

燎原書店  
(東京都千代田区神田保町1-16)  
電話：東京 294-3445

---

編号：(日) 14195.38 14-J-1510S  
1980年10月初版発行 定価 5,500円

## 編集者の言葉

漢方医学と西洋医学の結合，臨床と医学の科学的研究の必要から，われわれはこの経絡穴位と生体解剖構造との位置関係を直視できる針灸穴位解剖図譜を編集・製図したものである。

本図譜は中国医学の経絡学説及び現代医学の解剖学上の要求に基づいて，死体解剖と生体実測などの方法により，関係資料を参照して，編集・製図したものである。編集・製図にあたっては，山東医学院、山東中医学院、及び山東医学院附属病院の看護婦学校など関係部門の教師諸氏のご協力を得て本図譜が出来あがった。

本図譜はあわせて100図あり（黑白図23，カラー解剖図77である），その内容は三つの部分からなっている。第一は十二経脈と奇経八脈の循行経路，所属経穴の定位、主治について，第二は人体部位に分けて，常用穴と生体解剖構造との位置関係について，第三は耳針穴位とその主治についてそれぞれ重点的に述べられている。本図譜は，医師、医学科学研究者の臨床及び科学研究の参照になるものと確信する。

編製・製図にあたって，瀋陽医学院、上海中医学院、河北新医科大学のご協力を得たことを記し，感謝の意を表す次第である。本図譜脱稿後に，各関係方面のご意見を求め，手を加えてみたが，まだ少なからぬ欠誤のあることを恐れている。読者諸賢の御叱正を求めてやまない次第である。

1977年7月

編集組

## 翻訳者のことば

本書は一九七九年、山東科学技術出版社が刊行した新初版本をテキストとして訳出したものである。

本書の翻訳を担当する方々は、山東中医学院日本語講師李子安、同学院中医基礎教研室講師遲華基、教師史蘭華、同学院針灸教研室針灸医師張登部、山東大学日本語学部日本語教研室副主任李万福、同大学日本語教師賈悌である。

校訂を担当した方々は、山東中医学院日本語講師李子安、日本語教師谷悦子である。

また、本書の翻訳原稿の校閲にあたっては、日本名古屋市立大学高木健太郎学長、同大学医学部解剖学教室渡仲三教授、助手馬淵良生の諸先生方からの御協力を得た。

ここで特記して本書の翻訳出版に御協力いただいた方々に謝意を表する次第である。

1980年12月

翻 訳 者

## 編 集 説 明

一、本図譜は漢方医学と西洋医学の結合、針灸、ハリ麻酔などの臨床治療及び医学科学研究の必要に応じて、編集・製図したものである。本図譜では解剖学の立場から常用経穴と生体解剖構造との位置関係を重点的に述べるだけで、生理機能などの内容にふれないことにした。また経穴の主治と操作に対しては、一通り概略を述べた。

二、本図譜の編集・製図の方法については、まず成年死体体表の解剖標示と骨度法によって、穴を取り、針を刺入する。実験によって得た進針深度を本図譜の最大深度とした。次に、層別に解剖、記録を行い、常用穴231個を重点的に解剖し、関係資料を参照して、本図譜を作成した。図譜は100図あり、（黑白図23幅）その内容は三つの部分からなっている。第一部分では、十二経脈と奇経八脈の循行経路、所属経穴の定位、主治について述べ、計361経穴を標出した。第二部分では、頭頸、軀幹、上肢、下肢の四つの部分に分けて作図し、主として常用穴231穴と人体の解剖構造の位置関係を重点的に述べた。穴位と解剖の位置関係を詳述するために、各部位の前面、後面、裏面、外面の四つの面からとりあげ、それぞれの面の体表位置図と浅層、深層解剖位置図に分けてみた。（ある面に中間層解剖図も加えた）第三部分では、耳針穴位の定位とその主治を126穴について述べた。

三、本図譜の解説には穴位の定位、操作、解剖および主治の四つの方面が含まれている。その深部に大切な構造があつて危険をもたらす穴位については、注意すべき事項が附記されて、正確、不正確な進針方向も標記されている。浅層とは皮層から深筋膜までの構造を指し、深層とは深筋膜の深面から針先の貫いたところを指す。浅、中、深各層の穴位の図上位置は、体表穴位の各層図に垂直投影したものである。従つて、各層図において、正中線に近い穴位を除いては、深層図上の位置は必ずしも針先の届く実際の位置とは限らない。これには三つの実情がある。第一は人体各部分

を不規則の円柱体と見なしてよいが、水平になる体表の穴位を直刺すると、針先が同じ位置に達することがある。然し、図上には両穴位を同じ位置に描くのは不適當であるので、垂直投影の方法で、表したのである。例えば、豊隆穴と同じ水平線にある条口穴は体表において1寸離れているが、針先の屈く所が同じ脛骨と腓骨との間にあるので、豊隆穴は深層図での位置を垂直投影の方法によって、腓骨の外側に描いたのである。このようなことは四肢の穴位に多く見られる。例えば、糾内翻穴と糾外翻穴などがそうである。第二は、横刺と斜刺の穴位において、針先の屈くところが平面図上で、表し難いものがある。例えば翳風穴、胃上穴、増音穴、提托穴なども体表垂直投影の方法を用いて表しているのである。第三は特殊な姿勢で取穴する必要のあるものである。これも、解剖姿勢によって作成した平面図に適当に針先の屈く位置を表すことができない。例えば、曲池穴を刺す時は腕を90°に曲げて進針すべきであるが、図上では腕を伸した姿勢である。垂直投影方法によって、これもやむをえず、深層図上の穴位を上腕骨の外側の上顆に描いた。このようなことは関節上の穴位に多く見られる。それがために、解説で述べた針先の屈く位置及び針の経過構造は図上の穴位の投影した周りの構造とは必ずしも完全に一致するとは限らない。こういう場合は文字解説に基づくものとする。

四、解説の中で述べた針の経過構造とは、針の周囲1cm以内構造を指すのである。製図・編集にあたっては重点を際立たせるため、体表からの深度（層区分）の関係から、解説で述べた解剖構造をすべて図上に表すことができなかつた。

五、本図譜に書いてある輸穴はすべて骨度法によって取穴し、経脈毎に色区分して明示した。（詳しくは図24の穴位着色図例参照）また、点線と実引線によつて、解剖構造と穴位の名称を区別した。

六、生体と死体解剖をくりかえして比較検討したところ、棘突起の尖端と肋間の対応関係については、上の棘突起の尖端が下の肋間と平行になっているのが発見された。例えば、第一胸椎の棘突起の下の外方1.5寸にある大杼穴は第一肋間にあるのではなく、第二肋間隙にある。従つて、本図譜の背部の膀胱経の穴位は、過去における針灸の本で定めた位置より一肋間下がるわけである。

七、本図譜で、穴位と解剖構造位置関係を描くにあたっては、普通の解剖学上の常用定位の用語が用いられる。例えば××の「前面」、「橈側面」などがそれである。穴位の定位についても、できるだけ、こういった方法に準じた。但し、あるものはやはり伝統的な定位方法を用いることにした。

八、骨度法とは、人体の各部分を一定の長さで幅に定めて、それを若干の等分に分けて、1等分を1寸とする。これによって取穴する。本図譜で、穴位を定める時に用いられる寸は骨度法の寸のことである。これは体表図と深層図にそれぞれ表示されている。そして体表の解剖学上の表示にも必要な説明を加えた。

本図譜の進針深度に用いられる寸は中国の国家基準の寸であって、1市寸 = 3.33cmである。

# 第一 部 分

## 経 絡 走 行 図





# 一、経絡走行全図

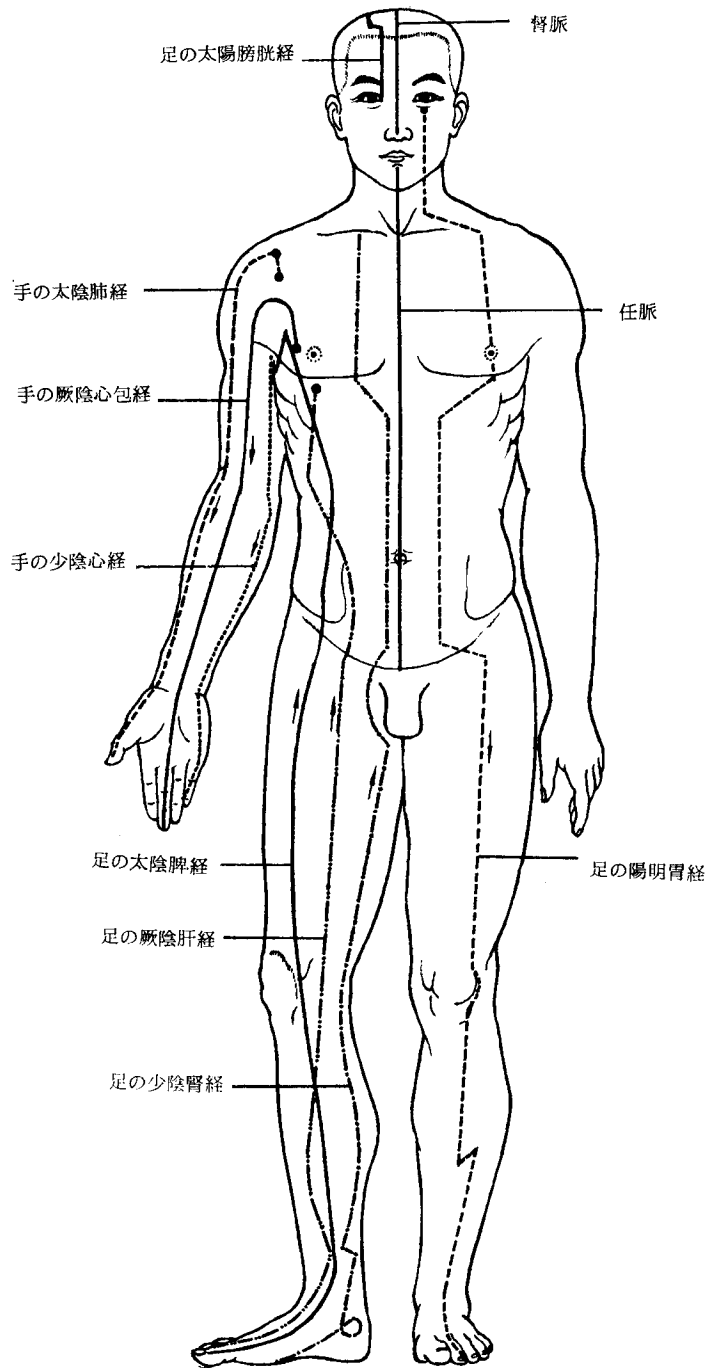


図1 十四経脈の分布図（前面）

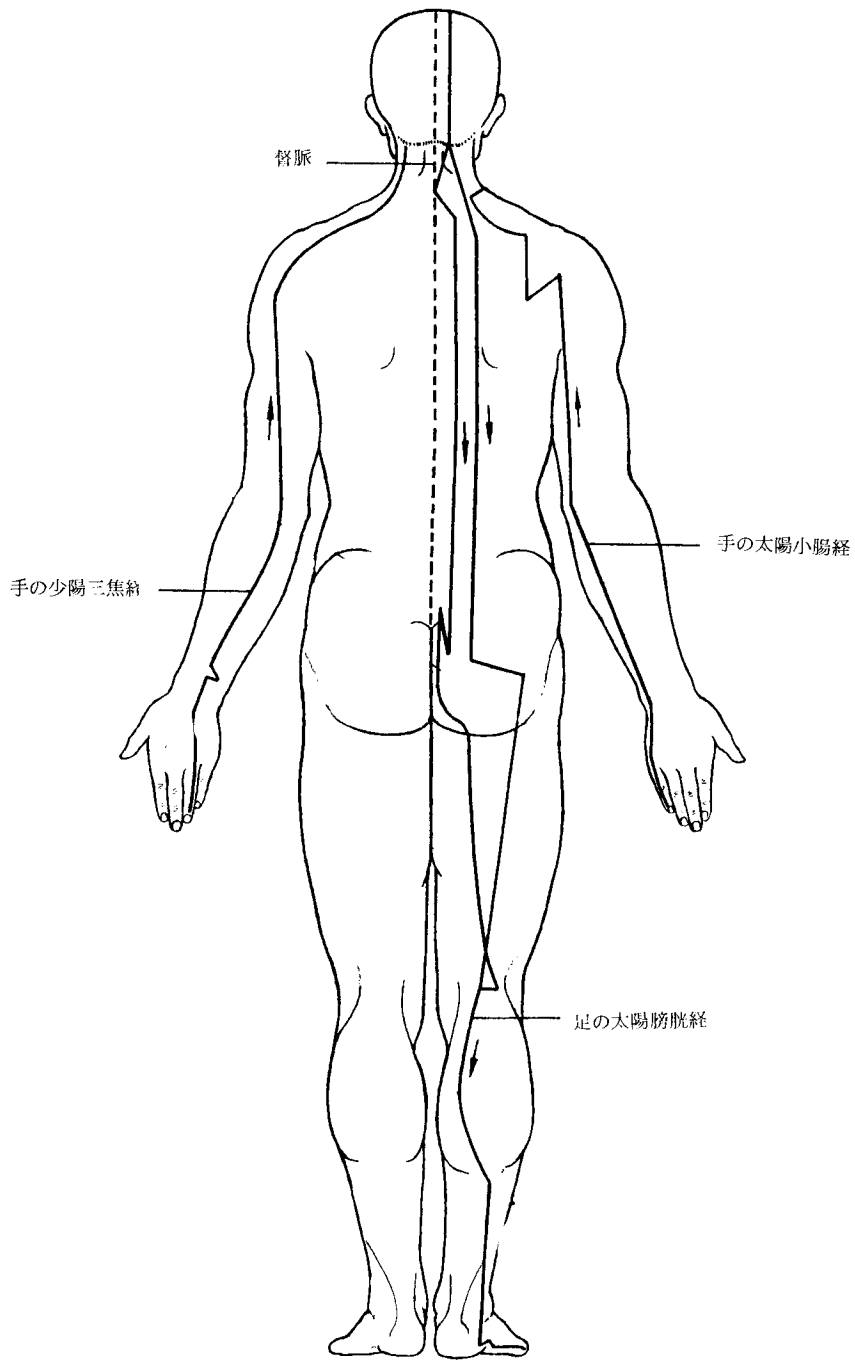


図2 十四経脈の分布図（背面）

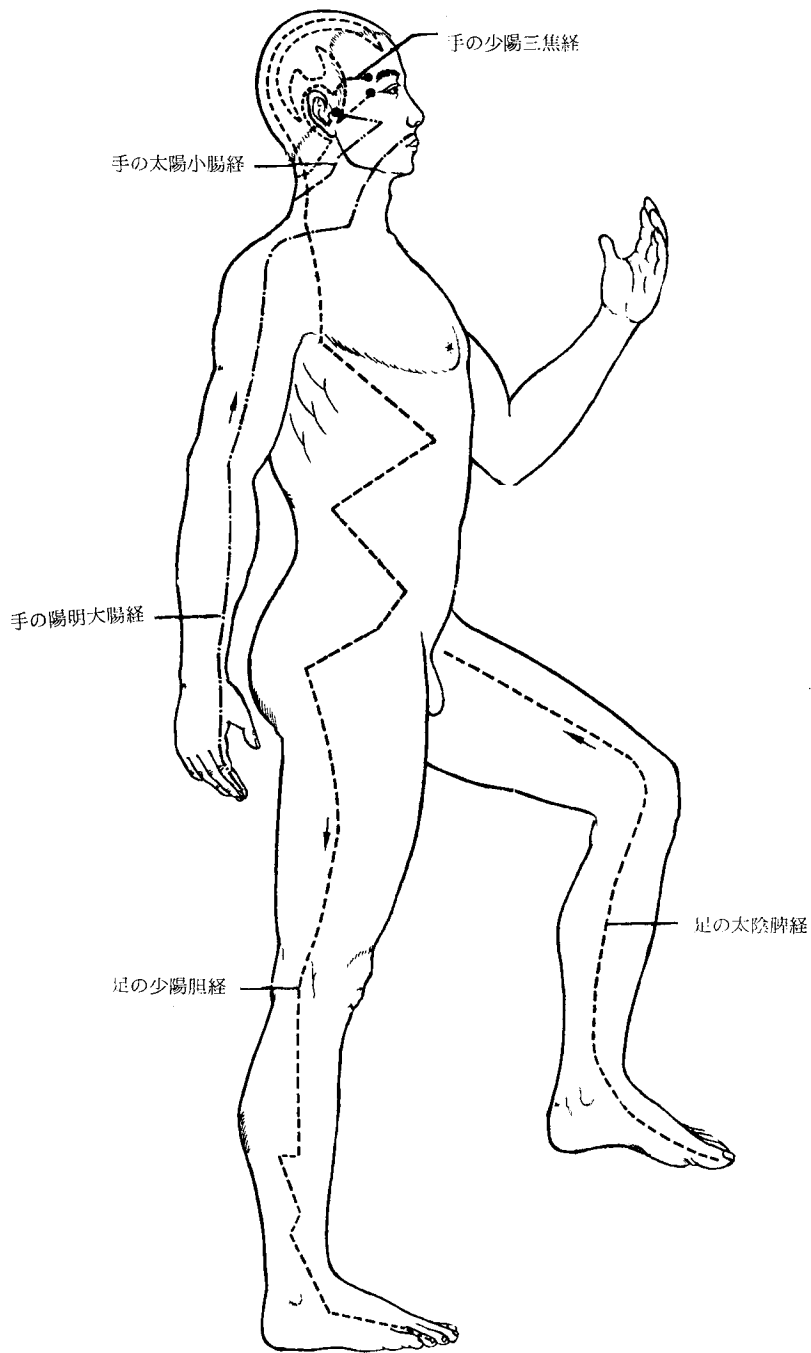


図3 十四経脈の分布図（側面）

二、経絡走行各図  
(一) 十二経脈走行図

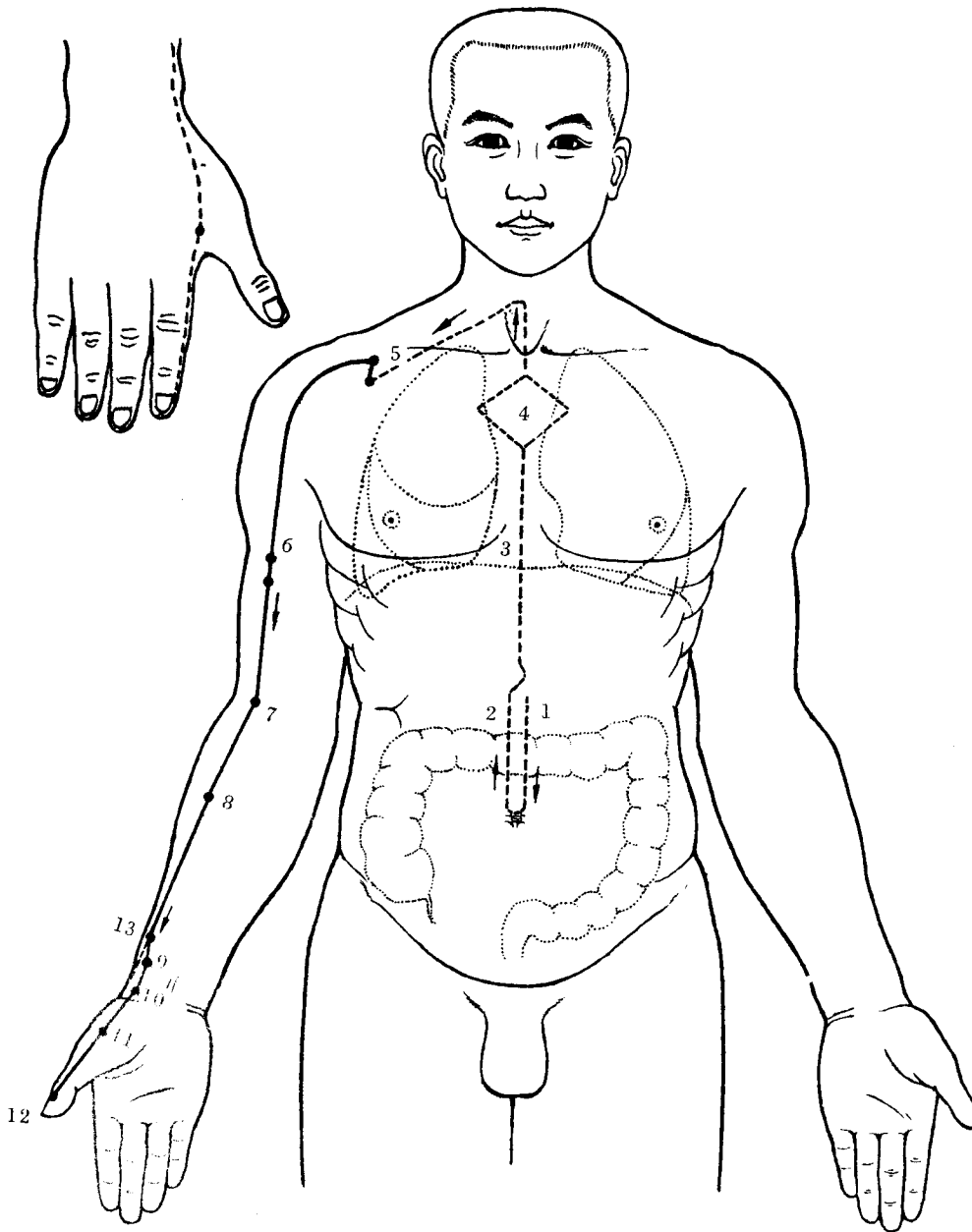


図4 手の太陰肺経走行図

## 手の太陰肺経（図4）

### 1、循行経路

手の太陰肺経の流注は胃のあたり（中焦）から始まり<sup>1</sup>、下って大腸を絡い、反転上行して<sup>2</sup>胃の上口に沿って、横膈を貫いて<sup>3</sup>肺に属する<sup>4</sup>。肺臓から咽喉に至って横に出て<sup>5</sup>、腋窩に下り<sup>6</sup>、上腕前面の橈側縁に沿って、手の少陰心経と手の厥陰心包経の前面に走行し、下って肘窩を経て<sup>7</sup>前腕の橈側縁に沿って<sup>8</sup>手根後部の橈骨茎状突起の内側まで下行し<sup>9</sup>、手根後部から<sup>10</sup>、拇指球に至り<sup>11</sup>、その辺縁に沿って拇指の橈側の末端（少商穴）に終る<sup>12</sup>。

その支脈は手根後部の橈骨茎状突起の上方（列缺穴）から分れて<sup>13</sup>、手の背面を示指の橈側の末端（商陽穴）まで走行する。

### 2、臓腑との関係

肺に属し、大腸を絡い、横膈を貫いて、胃と腎につながる。

### 3、経病と臓病

(1) 経病の症候：悪寒、発熱、有汗又は無汗、頭痛、鼻閉塞、鎖骨上窩（缺盆）痛、胸痛、肩背部疼痛、上肢が冷えて痛む。

(2) 臓病の症候：咳嗽、喘息、呼吸速迫、胸内苦悶、胸満感があり、痰・涎沫を吐き、咽喉部乾燥、尿の変色、心煩、唾液に血がまじり、掌中熱する。ときに胃腹部脹満を伴ない、軟便下痢する。

### 4、主治範囲と作用部位

胸部、咽喉、気管、鼻および肺疾患。

5、所属する経穴（計11穴）下記の表の通り。

穴名	定 位	主 治
中 府*	雲門穴の下方1寸、第一肋間と水平線上にある	咳嗽、喘息、胸痛、肺部の脹満、肩背部疼痛
雲 門*	鎖骨の下縁に平行する正中線より外方6寸にある。上肢をまげると、モーレンハイム窩が現われる。その陥凹部にある	咳嗽、喘息、胸内苦悶、胸痛など
天 府	尺沢穴の上6寸、上腕二頭筋橈側にある	喘息、衄血、上腕内側痛
俠 白	尺沢穴の上5寸、上腕二頭筋橈側にある	咳嗽、息切れ、胸内苦悶、上腕内側痛
尺 沢*	肘窩横紋中、上腕二頭筋腱の橈側縁にある。肘関節を少しまげて取穴する	咳嗽、喘息、咯血、咽喉の腫れ痛み、肘関節内側疼痛など
孔 最*	手関節横紋の上7寸、尺沢穴と太淵穴との連接線上にある	咳嗽、頭痛、胸痛、頸項強痛、喘息、腕部と肘関節が痛んで屈伸不能になる
列 缺*	橈骨茎状突起の上、手関節横紋の上1.5寸にある	頭痛、咳嗽、鼻閉塞、顔面神経麻痺など
経 渠	橈骨動脈の橈側、太淵穴の上1寸にある	咳嗽、喘息、咽喉の腫れ痛み、手頸痛
太 淵*	手関節横紋の水平線となって橈骨動脈の橈側縁の陥凹部にある	無脈症、喘息、胸痛、肩背部疼痛、肘関節及び周囲軟組織疾患など
魚 際*	第一中手骨内側の中点赤白肉際にある	咳嗽、喘息、発熱、咽頭の腫れ痛み、手腕部腱鞘炎
少 商*	拇指橈側、爪甲角より外方0.1寸にある	咽頭の腫れ痛み、発熱、昏睡、呼吸衰竭

\*印は常用穴を示す。

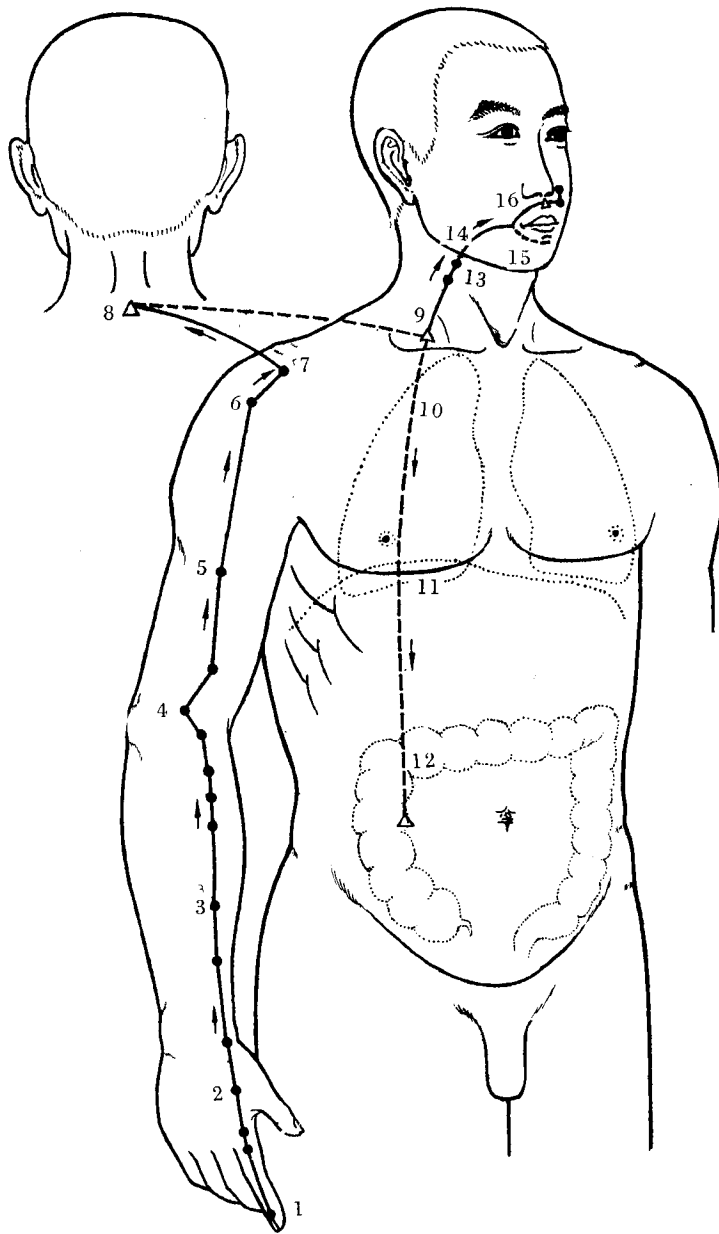


図5 手の陽明大腸経走行図

## 手の陽明大腸経 (図5)

### 1. 循行経路

手の陽明大腸経の流注は示指の橈側の末端(商陽穴)から始まり<sup>1</sup>, 示指の橈側上縁に沿って, 第一、二中手骨の間(合谷穴)を<sup>2</sup>通って, 長拇指伸筋腱と短拇指伸筋腱との間の陥凹部に上行し, 前腕背面の橈側縁に沿って<sup>3</sup>, 肘窩横紋の外側に入り<sup>4</sup>, さらに上腕背面の橈側縁に沿って<sup>5</sup>, 肩関節の前上方に上行し<sup>6,7</sup>, 上がって第七頸椎棘突起の下方に出て, 督脈の大椎穴に交わり<sup>8</sup>, また鎖骨上窩(缺盆)に入り<sup>9</sup>, 下って肺臓をまとい<sup>10</sup>, 横膈を<sup>11</sup>通って, 大腸に属する<sup>12</sup>。

その支脈は, 鎖骨上窩から頸部に上行し<sup>13</sup>, 頰を経て<sup>14</sup>, 下歯齦に入る<sup>15</sup>。また返って口唇を挟み, 足の陽明経の地倉穴を経て, 左右交叉して上唇の人中溝中央の人中穴に交わる。左脈は右へ, 右脈は左へ, それぞれ上がって鼻孔の両側(迎香穴)に

分布する<sup>16</sup>。

### 2. 臓腑との関係

大腸に属し, 肺を絡い, 直接胃とつながる。

### 3. 経病と臓病

(1) 経病の症候: 発熱, 口渇, 咽頭痛, 衄血, 歯痛, 眼充血・痛, 頸腫, 肩甲部疼痛, 上腕部痛, 或いは赤く腫れ, 灼熱, 或いは冷感があり, 五指不随。

(2) 臓病の症候: 臍腹部疼痛, あるいは腹痛が移動して定らず, 腸雷鳴, 軟便下痢, 或いは大便に黄色の粘液物があり, 呼吸早くして喘息, 上気するものもある。

### 4. 主治範囲と作用部位

頭、顔、眼、耳、鼻、口、歯、咽喉、腸疾患および熱病。

### 5. 所属する経穴(計20穴)下記の表の通り。

穴名	定 位	主 治
商 陽	示指橈側, 爪甲角の外方約0.1寸のところに ある	発熱, 咽喉の腫れ痛み
二 間	第二中手指関節前の橈側の陥凹中にある	のぼせ, 衄血, 歯痛, 咽喉の腫れ痛み
三 間*	示指橈側, 第二中手骨下端の後方の陥凹中にある。なかば手を握つて取穴する	眼痛, 下歯痛, 三叉神経痛, 咽喉の腫れ痛み, 手指と手背面が赤く腫れるなど
合 谷*	第一中手骨と第二中手骨の間, 第二中手骨中点寄りにある	風邪, 顔面神経麻痺, 半身不随, 神経衰弱, 歯痛および諸疼痛
陽 谿*	腕関節部背面の橈側, 拇指を伸すと長拇指伸筋と短拇指伸筋の間の陥凹中にある	頭痛, 眼充血, 難聴, 耳鳴り, 咽喉麻痺, 手頸痛, 妄言, 煩躁, 小児消化不良症など
偏 歴*	陽谿穴の直上方3寸, 橈骨外側の陥凹中にある	扁桃炎, 顔面神経麻痺, 前腕神経痛, 小便不利, 浮腫, 衄血など



穴名	定 位	主 治
温 留	陽谿穴の上方5寸のところにある	頭痛，咽喉の腫れ痛み，腸雷鳴，腹痛，肩背部痛疼
下 廉	曲池穴の下方4寸のところにある	頭痛，めまい，上肢痛，腹痛，消化不良
上 廉	曲池穴の下方3寸のところにある	半身不随，手足しびれ，捻挫，腸雷鳴，腹痛
手三里*	曲池穴の下方2寸のところにある	中風半身不随，耳下腺炎，上肢リウマチ性神経痛，顔面神経麻痺，頭痛，眼痛，難聴など
曲 池*	肘関節を90度にまげると，肘窩横紋の外端と上腕骨外側上顆との接続線の中点にある	中風半身不随，上肢関節痛，高血圧，高熱，はしか，腰部疼痛
肘 髎	曲池穴の外上方，1寸のところにある	上腕部及び肘関節痛，しびれ
手五里	曲池穴の外上方3寸のところにある	咯血，結核性リンパ腺炎，肺炎，胸膜炎，上腕部及び肘関節痛など
臂 臑*	腕の外側，三角筋の終点より少し前方，曲池穴と肩髃穴との接続線にある	肩腕痛，上肢麻痺，眼病
肩 髃*	上肢を外展して水平まであげると肩甲関節部に陥凹部が二つ現われ，肩峰突起と上腕骨との間の陥凹中にある	肩腕痛，上肢関節痛，半身不随，麻痺，高血圧，多汗症など
巨 骨*	鎖骨肩峰突起先端と肩甲骨棘との陥凹部にある	肩関節および軟部組織疾患，吐血，結核性頸リンパ腺炎
天 鼎	鎖骨上窩の上方胸鎖乳突筋の後縁，扶突穴の直下1寸のところにある	扁桃炎，結核性頸リンパ腺炎
扶 突*	胸鎖乳突筋の後縁，喉頭隆起と水平線になるところにある	せき，喘息，痰が多く，咽喉の腫れ痛みなど
禾 髎 (禾 窠)	水溝穴(人中穴)の外方0.5寸鼻孔外縁の直下にある	衄血，鼻閉塞，顔面神経麻痺，口噤
迎 香*	鼻翼外縁の中点と鼻唇溝との交叉点にある	鼻腔疾患，顔面神経麻痺，三叉神経痛，胆道蛔虫症など